

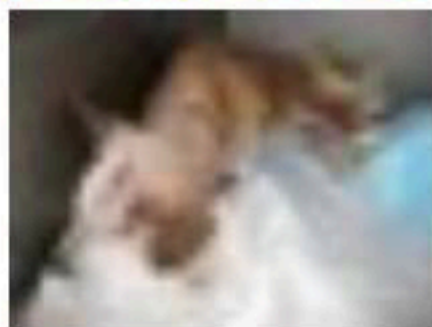
Q1 乳腺腫瘍は多いの？

A1. 雌犬では26%4頭に一頭の確率で発生しています。

乳腺腫瘍はイヌの腫瘍では3番目、雌犬の腫瘍では一番多い腫瘍です。これは日本人女性の8%にくらべ、3倍以上です。おっぱいの数が10個もあるので当然かもしれませんがそのうちの50%は悪性、いわゆる乳がんといわれています。なかには炎症性乳がんといわれる現在の獣医学では十分に治療できない恐ろしいがんも含まれます。

猫では良性腫瘍はまれでほとんどが悪性のがんになります。残念ながら80~90%が悪性なのです。この病気は生存期間も短く、痛みを伴い食欲の低下がよくみられます。

Q2 乳腺腫瘍を治療しないとどうなるの？



A2.. 腫瘍の転移などで命を落とします。

乳腺腫瘍特に悪性の乳がんは見た目ではわかりませんがしみ込むように周りに広がり血流管やリンパ管から細胞が遠隔転移しやすくおもにリンパ節、肺、肝臓によく転移してそこに転移病巣を作ります。

肺転移による呼吸困難は乳がん患者の死因としてたいへん多い原因になっています。

また原発巣が急激に大きくなるとよくこすれる場所が破裂してしまい、潰瘍になって化膿し膿や悪臭を発することもあります。

そうなりますとたいへん辛く苦しい思いをさせなくてはならず飼い主さんにとっても大きな不幸となります。

イヌの炎症性乳がんと猫の乳がんは血管やリンパ管がよくつまり激しい炎症を伴ったり多臓器不全や全身に血栓を形成する末期状態の原因になります。

乳腺腫瘍は予防

できる！

早い時期での避妊手術により乳腺腫

瘍は予防できます。イヌの乳腺腫瘍

の発生率は避妊していないイヌで

26%なのに対し、初回発情後に避妊

したイヌでは8%、初回発情前では

なんと0.05%にさがります。猫でも

2回目の発情前に避妊することで乳

がんの発生が七分の一に下がると言

われています。

早期避妊手術のメリット 避妊手術

は必ずしも必要な手術ではありません

んが乳腺腫瘍をはじめ多くの婦人病

を予防するだけでなく性欲のフラス

トレーションを取り去るので情緒安

定、問題行動を改善したり、平均寿

命の延長など多くのメリットがあり

ます。



MiU動物病院インフォメーション

046-888-7030

<http://miu-ah.or.jp>

2012/4.16

Q3 乳腺腫瘍になったら治らないの？

A3. 1cm以下なら根治が狙えます。

現在の獣医学では乳腺腫瘍の治療は手術による摘出がメインになりますが腫瘍（しこり）の大きさが1cm以下なら完治、根治するケースもたいへん多いのです。一方で一般に3cm以上になった乳腺腫瘍は再発、転移のリスクが高く根治が難しいので、手術後に緩和、対症療法の適用となります。

緩和療法とはがんの根治は無理に目指さず、QOL（生活の質）の向上を第一とした治療で、補助的な化学療法（抗がん剤）、放射線療法やその他の薬、病院と飼い主さんとの連携した看護が主体になります。腫瘍との戦いは飼い主さんにとっても辛く大きな負担がかかります。無理をせずにできるだけことをするには病院スタッフとご家族の協力が必要になるでしょう。

対症療法とはQOLの維持のみを目標とし、腫瘍そのものの治療は行わず症状の軽減のための治療のみを行います。

どの治療が勧められるかは、獣医とのしっかりした話し合いをして、最終的にはしゃべれないイヌ、猫さんたちの代わりに飼い主さんを選んでもらいます。

さいごに人間ほどではありませんが昨今、がん治療は急速に発達しており数ある慢性疾患の中でも最もコントロールすることが可能な病気とも言われています。みなさんにはあきらめる前にぜひ当院でご相談くださりこの病気についてもっと良く知っていただきたいと思います。

MiU動物病院院長 獣医師：富宅伸幸